



本年、日本とエルサルバドルの外交関係樹立90周年に当たる「日・中米交流年」を迎えるに際し、日本国政府及び日本国民を代表し、心からお喜び申し上げるとともに、エルサルバドル政府及び国民の皆様の両国関係の緊密化に向けた尽力に改めて感謝の意を表します。

日本とエルサルバドルは、長きにわたり政治、経済、文化など幅広い分野で交流を深めてきました。日本企業は第二次大戦後間もない時期からエルサルバドルに進出し、両国経済の発展に貢献してきました。また、エルサルバドルは中南米で最初にJICA海外協力隊が派遣された国であり、現在も様々な分野で隊員が活躍しております。

近年、エルサルバドルは、ブケレ大統領のリーダーシップの下、治安が飛躍的に改善していることを歓迎します。全ての人々が、安全と安心を感じられる社会、そうした国造りを私も目指しているところです。また、ブケレ大統領が次の目標に掲げる経済成長の実現に向け、海外からの投資や観光の誘致を進めておられると承知しています。エルサルバドルは価値と原則を共有する日本の重要なパートナーであり、この機会に両国の協力関係を強化し、国際場裏での様々な課題にも共に取り組んでいきたいと考えています。

昨年5月、日本は新たな中南米政策スピーチの中で、国際社会が直面している挑戦、そして人類共通の課題に対し、日本と中南米が互いを尊重し合い、学び合い、対話を通じて解決策を共創していく方針を掲げました。日・エルサルバドル外交関係樹立90周年に当たる「日・中米交流年」を通じて、この対話を推し進め、日本とエルサルバドル、そして中米統合機構（SICA）加盟諸国との協力を新たな段階へと押し上げていく考えです。この目標の実現は政府間のみで成し得るものではなく、国民の皆様幅広い参画をお願いしたいと思います。

両国政府と両国民の友好・協力関係の更なる発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

令和7年（2025年）2月
日本国内閣総理大臣
石破 茂